

学校だより



川西市立多田小学校

5月号 平成30年5月1日

学校HP: http://www.kawanishi_hyg.ed.jp/tadapo/

新年度、好スタート!

新年度が始まってひと月がたちました。朝の校門で子どもたちの様子を見てみると1年生は集団で登校することにもだいぶ慣れてきたようです。また、運動場からは元気いっぱいの声、教室からは本読みの声やきれいな歌声が聞こえてきます。本校の順調な滑り出しに保護者、地域の皆様、職員そして児童たちに感謝いたします。



ならぬことはならぬものです

江戸時代の会津藩に『日新館』という藩士の子弟が学ぶ学校(藩校)がありました。会津藩では、10歳になると日新館に入って学問や武芸を習うことになっていましたが、まだ日新館に入れないうちから6歳から9歳くらいの小さな子どもたちは、自分たちの町に子どもたちだけで集まりを作っていました。その集まりを「什(じゅう)」と言いました。会津藩の子どもたちはみな、町ごとに作っている「什」に必ず入らなければなりませんでした。

「什」では一番年上の者が「什長」というリーダーになり、什長は午後の集団遊びの前に「什の掟(おきて)」を話しました。その内容は、

- 一、年長者の言うことに背(そむ)いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀(じぎ)をしなければなりません
- 一、うそを言うことはなりません
- 一、卑怯(ひきょう)な振る舞いをしてはなりません
- 一、弱いものをいじめてはなりません
- 一、戸外(こがい)で食べ物を食べてはなりません



というような内容で、どの町の「什の掟」も必ず最後は「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられていました。この「什の掟」を守らなかった場合は、親とともに仲間にお詫(わ)びをしなければならなかったそうです。たとえお詫びをしても、改心した様子が見られない場合は「ならぬことはならぬものです」とけっして許してもらえなかったということです。

「ならぬことはならぬものです」という言葉には、人として生きるためには、理屈や言い訳が通らない、絶対にやってはいけないことがあるという意味が込められています。礼儀がないこと、嘘をつくこと、弱い者いじめをすることなどは、人間として恥ずかしいことだと戒められていたのです。会津藩の子どもたちは大人から言われて「什の掟」を作ったのではありません。自分たちだけで掟を作って実行していたのです。

みなさんは、物事を判断したり、行動したりするとき、自分の基準を持っていますか。会津藩の子どものように「うそをつかない」という基準を持っている人もいます。あるいは、「自分がされて嫌なことは人にけっしてしない」という基準を持っている人もいます。基準はその人によってまちまちです。けれども、何よりも大切なことは、自分の基準が周囲の人を楽しく幸せな気持ちにし、自分をも高めるような基準になっているかどうかということです。

そのような基準をみなさん一人ひとりがしっかりと持ち、その基準を破りそうになった時は「ならぬことはならぬものです」と自分自身を抑えられるようになることが、とても大切です。

みなさんは、これから多くの人とかかわりながら生きていきます。いつも物事が自分の思い通りにいくとは限りません。どのような時であっても、周囲の人のことを考え、我慢すべきところは我慢し、友だちと心を通わせながら楽しい日々を過ごしてください。

家庭訪問 ご協力ありがとうございます

4月25日より家庭訪問が始まっています。家庭や地域での子どもたちの生活の様子を知り、保護者の方との話し合いを生かして、今後の学習指導や生活指導を充実させていくことが目的です。また、放課後の過ごし方、健康上や配慮事項をしっかりと聞きすることも大事な目的の一つです。お忙しいとは思いますが、ご協力よろしくお願ひいたします。

～ 交通安全教室 ～

川西警察のお巡りさん、交通安全指導員さん、交通安全ボランティアさんにお世話になりました。1年生は安全な歩行、4年生は安全な自転車の乗り方について指導していただきました。



～ 1年生を迎える会 ～



温かい拍手の中、代表委員を先頭に1年生の入場です。

続いて、それぞれの学年から行事や遊び、給食、安全な登下校のことなど、クイズや寸劇を交え楽しく学校紹介をしてくれました。



～ 補導員さんの紹介 ～



1年生を迎える会に続いて、青少年補導員のみなさんを子どもたちに紹介しました。地域で子どもたちをあたたく見守ってくださる皆さんです。補導員さんの活動内容などをお話してくださいました。補導員のみなさん、子どもたちをよろしくお願ひします。

日々の学校生活について、ホームページで紹介しています。ご覧ください。